資料　1

松山圏域の感染症の発生状況について

〈今回報告する疾病〉

- インフルエンザ
- 新型コロナウイルス感染症
- 感染性胃腸炎
- 梅毒
- 主な全数把握感染症

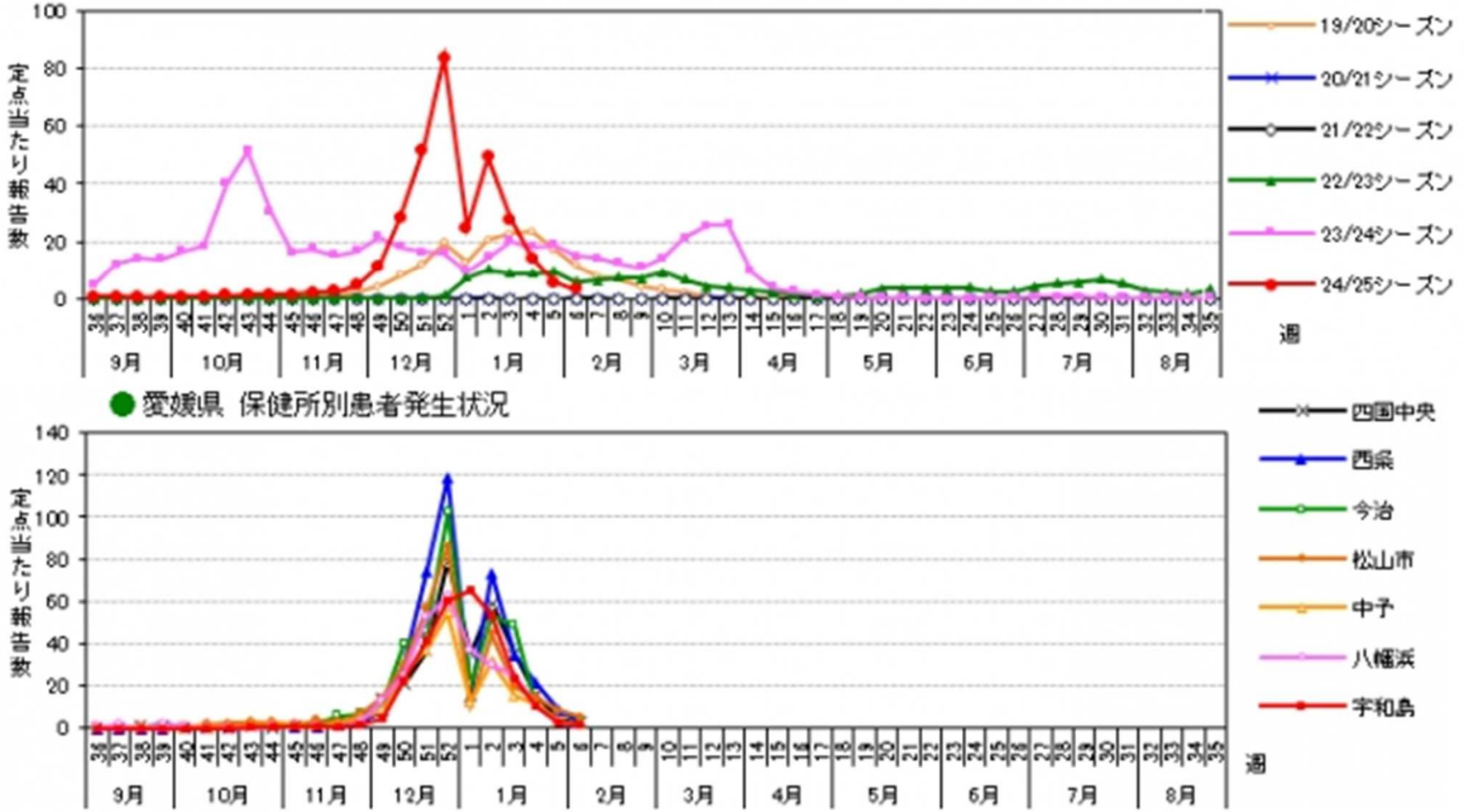
〈トピック報告〉

- 本県における高病原性鳥インフルエンザの対応について

インフルエンザの発生状況

愛媛県感染症情報センター抜粋

定点当たり患者報告数の過去５年の推移（県及び各保健所別）

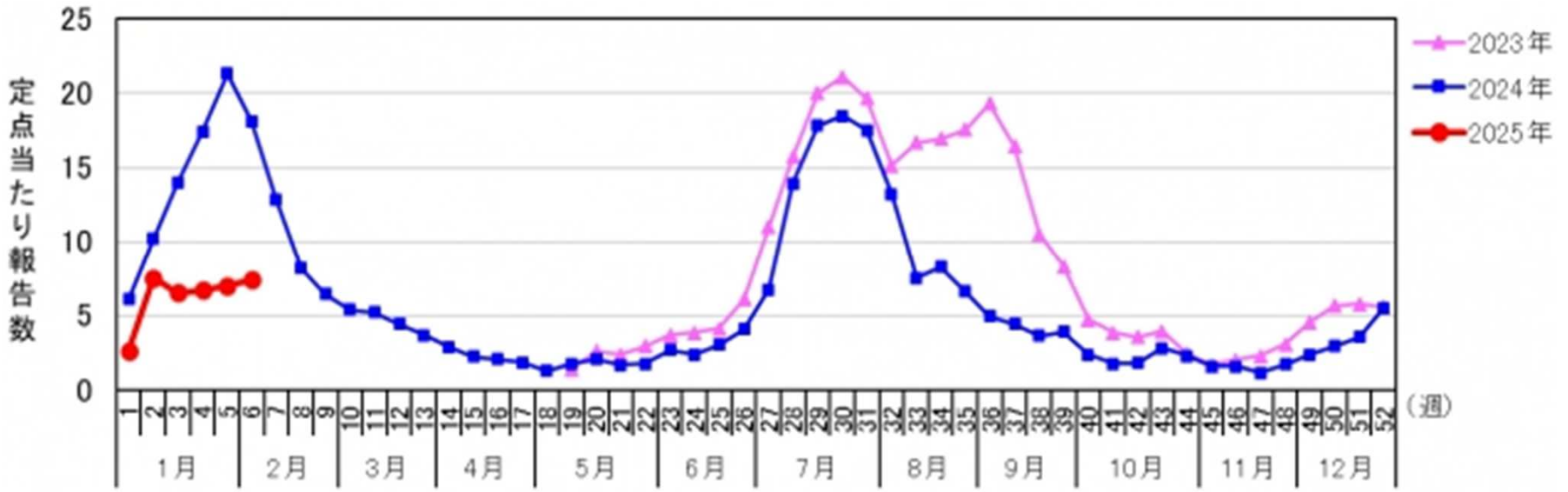


・12月から1月にかけて定点当たりの報告数が急増し、過去5年で最多
・第51週に警報レベルとなったが、2025年第5週に警報・注意報レベルを下回る

新型コロナウイルス感染症の発生状況

愛媛県感染症情報センター抜粋

愛媛県　週別患者発生状況

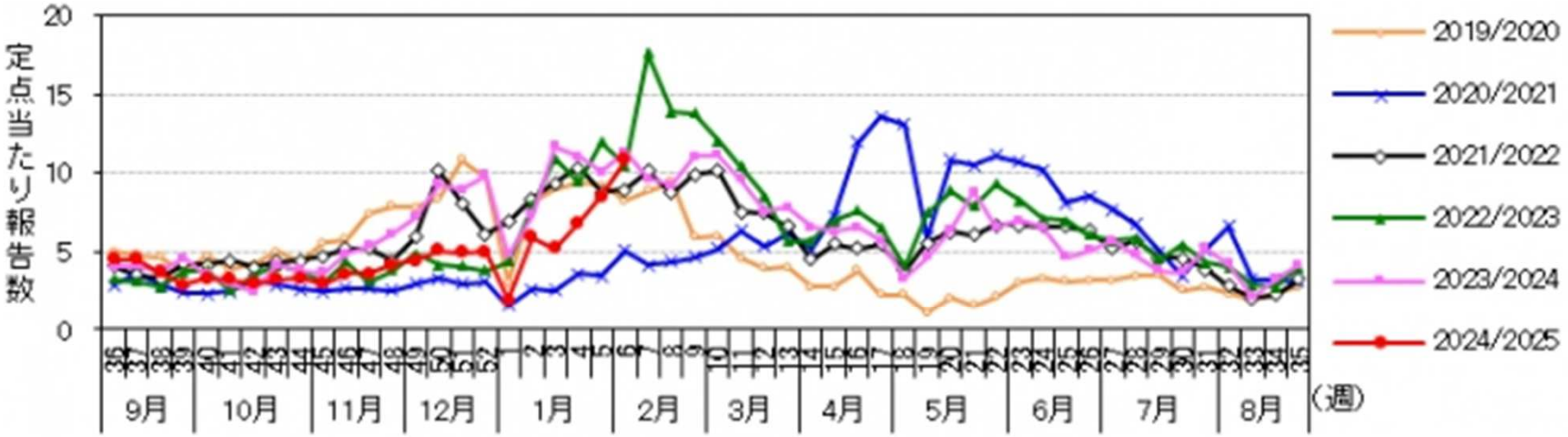


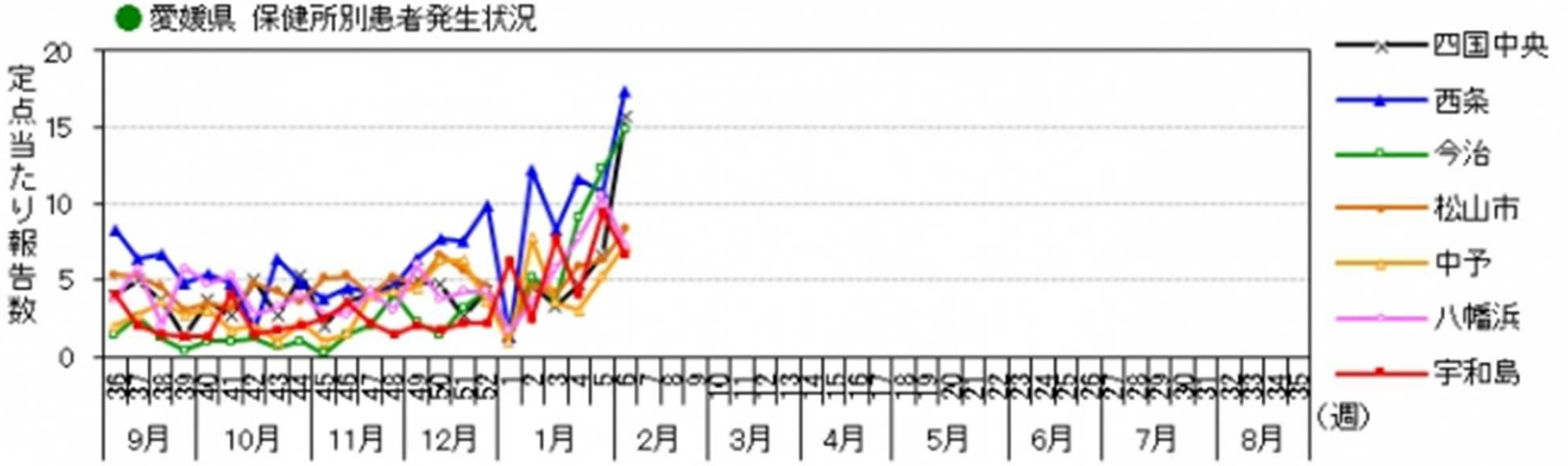
- **2024年は1月から急増し2月上旬にピークを迎えているため、今後の動向に注意が必要**
- **年齢別にみると、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層でみられている**

感染性胃腸炎の発生状況

愛媛県感染症情報センター抜粋

定点当たり患者報告数の過去５年の推移（県及び各保健所別）

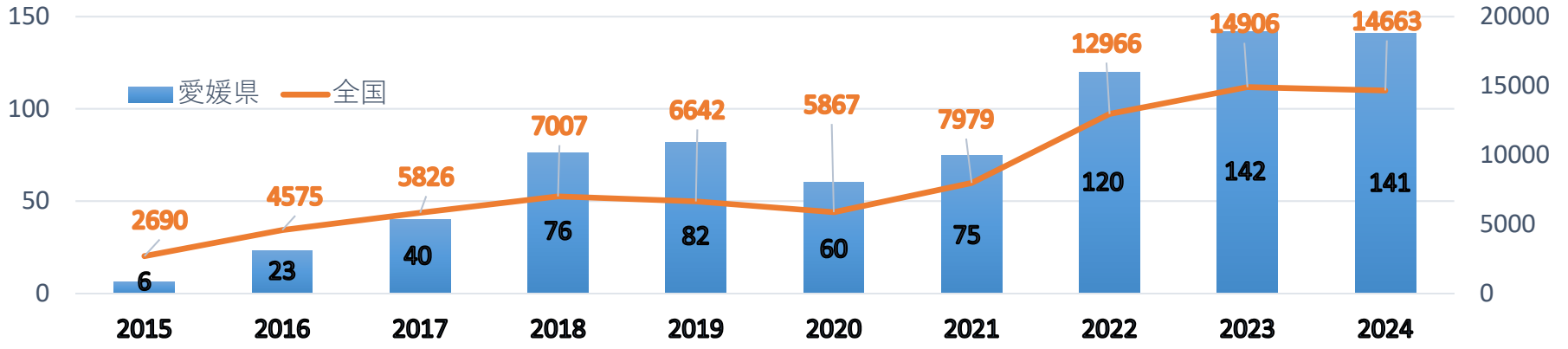


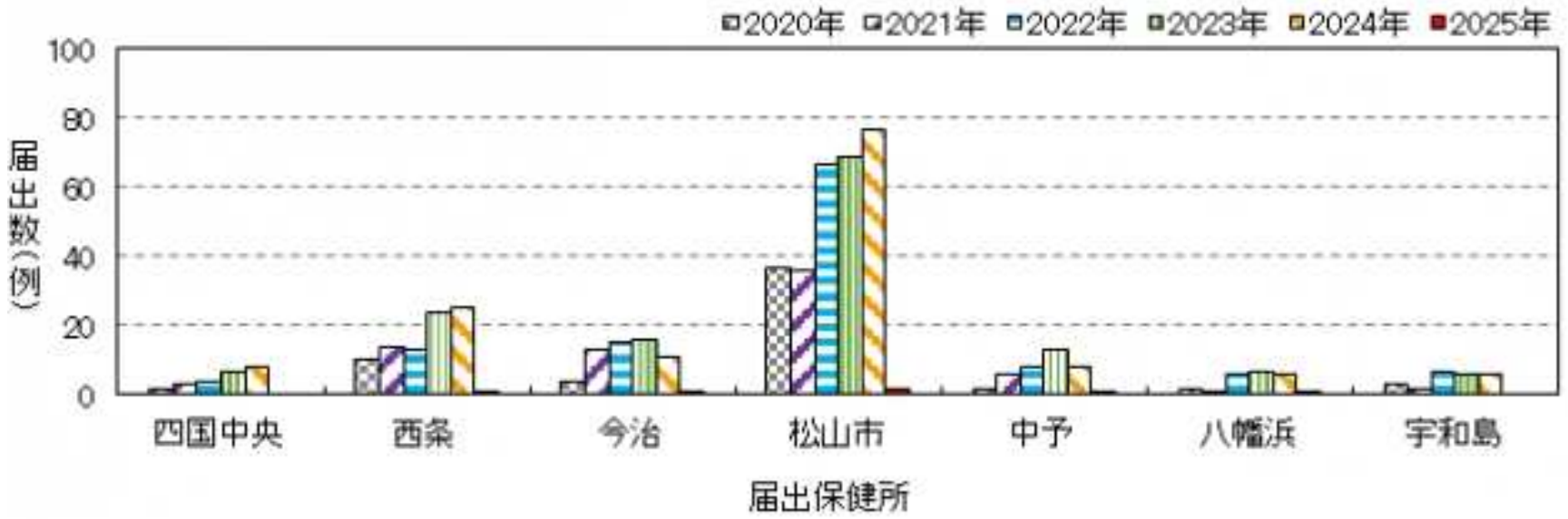


・例年、冬季に報告数が増加する傾向にあり、今後の動向に注意が必要

梅毒の発生状況

愛媛県ホームページ、愛媛県感染症情報センター、IDWRから集計





・届出開始以降最多となった2023年とほぼ同数で推移
・例年、松山市保健所（医療機関所在地からの届出）が多い傾向

その他の感染症の発生状況

過去２年の主な全数把握感染症の報告数

愛媛県感染症情報センターから集計

感染症分類		2024（R6）速報値※			2023（R5）		
類型	名称	県	中予	松山市	県	中予	松山市
二類	結核	138	9	38	112	6	31
三類	細菌性赤痢	—	—	—	1	—	—
	腸管出血性大腸菌感染症	44	6	13	16	1	8
四類	E型肝炎	1	—	1	1	—	1
	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	6	1	4	3	—	1
	日本紅斑熱	19	—	12	20	—	7
	マラリア	—	—	—	1	—	1
	レジオネラ症	17	1	8	20	1	3
	レプトスピラ症	—	—	—	1	—	1
五類	アメーバ赤痢	4	—	2	3	—	1
	ウイルス性肝炎	3	1	2	4	—	—
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	16	—	10	28	1	10
	急性弛緩性麻痺	—	—	—	1	—	1
	急性脳炎	8	—	7	1	—	—
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	27	3	16	11	1	7
	後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）	7	3	2	3	1	—
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6	—	2	4	—	2
	侵襲性肺炎球菌感染症	17	1	8	8	2	2
	水痘（入院例）	1	—	—	5	—	2
	梅毒	141	8	76	142	13	68
	播種性クリプトコックス症	4	1	3	4	2	—
	破傷風	—	—	—	2	—	1
	百日咳	129	—	14	26	—	5
	風しん	—	—	—	—	—	—

※ 2025.1.16集計

本県における高病原性鳥インフルエンザの対応について

１　発生状況等

発生場所		発生日	飼養羽数	防疫措置	
				開始	完了
A	西条市	令和6年 12月10日	約15.0万羽	12月10日 8時00分	12月20日 20時00分
B	西条市		約8.6万羽		
C	今治市		20羽		
D	西条市	令和6年 12月19日	約11.0万羽	12月19日 9時00分	12月26日 9時00分

２　従事者数　延べ　６，３０５人（令和6年12月25日　6時00分現在）

再掲：中予地方局健康福祉環境部　延べ　91人

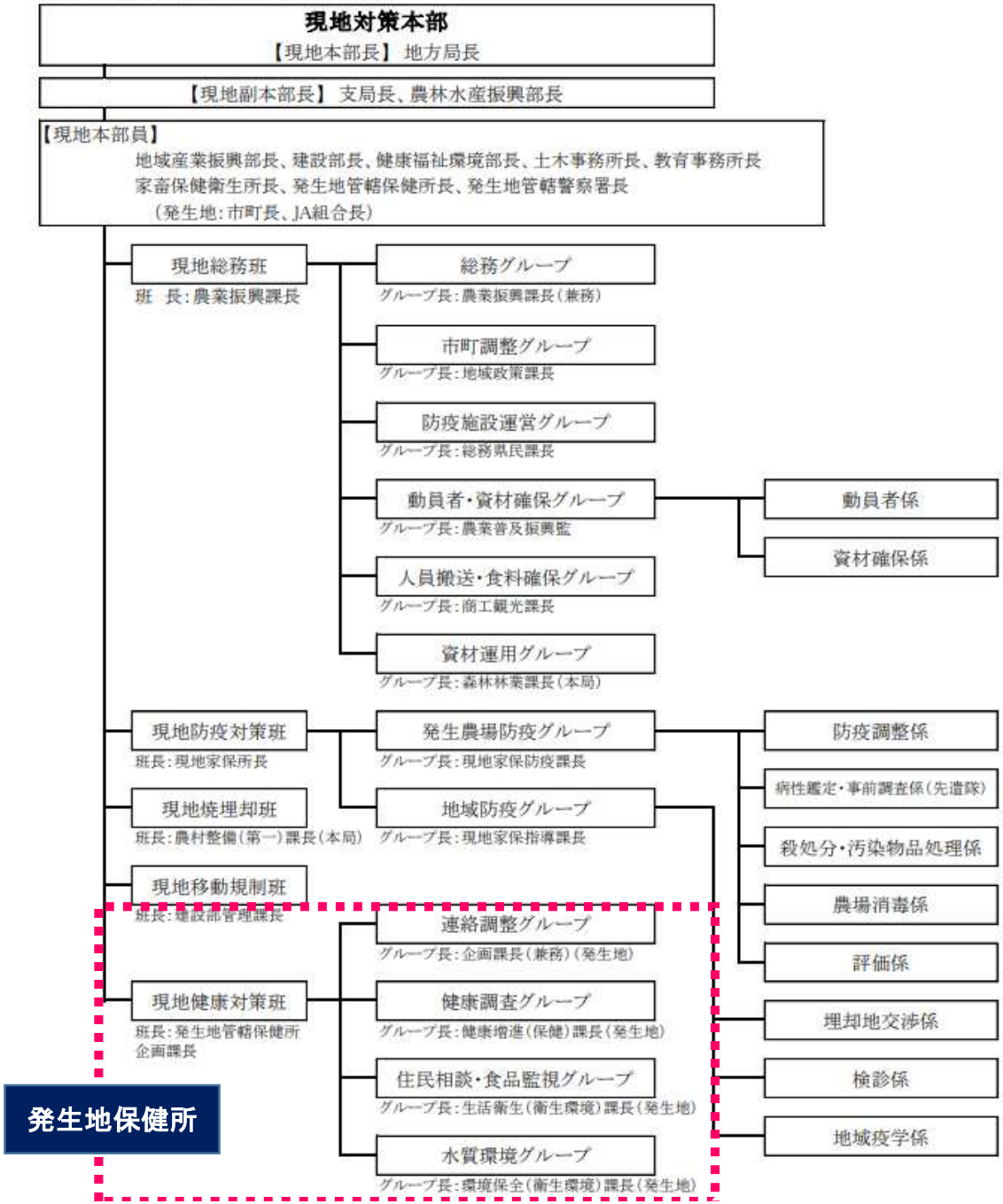
班長：延べ　13人

連絡調整グループ：延べ　26人

健康調査グループ：延べ　52人

※鶏肉や鶏の卵を食べることにより、ヒトが鳥インフルエンザウイルスに感染する可能性はないと考えられている。

現地対策本部の組織体制図



※防疫作業従事者に対しては、保健所等が健康観察を実施し、季節性のインフルエンザ等に感染した場合は遺伝子検査を実施することとなっている。

なお、国内で鳥インフルエンザを発症したヒトは確認されていません。

また、防疫作業従事者からの感染も確認されていません。

中予地域以外で発生した今回の支援体制
（1）派遣チーム体制

業務区分			人数	従事場所	体制
班長（総括）		総括及び現地対策本部との調整	1		
連絡調整グループ	グループ長	健康対策班内外連絡調整（総括）	1	保健所等	8時間3交代
	グループ員	健康対策班内外連絡調整	1		
健康調査グループ	**防疫従事者**※1 健康調査担当	受付	1	集合施設	8時間3交代
		誘導	1		
		従事前問診票チェック・従事後健康調査票チェック（保健師）	3※2		

（※1）防疫従事者概ね80名＝1チーム
（※2）発生市町1名を含む

（2）健康調査担当業務【全体の流れ】

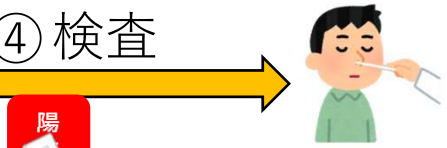
作業開始前健康調査 → 防疫服着用 → 防疫作業 → 消毒 → 防疫服脱衣 → 手洗い・うがい → 作業終了後健康調査 → 健康観察

体調不良者を確認した場合の対応フロー例

健康観察期間中（最終接触から10日間）
インフルエンザ様症状発現

①受診相談　②受診OK　③マスク着用受診

④検査



⑤所属に連絡

⑤管轄保健所に連絡

診察情報

⑧検体採取

⑤住所地保健所に連絡

健康観察情報

⑥発生地保健所に連絡

管轄保健所

⑦情報共有

住所地保健所

⑦情報共有

発生地保健所

⑧⑨情報共有

⑨検体搬送

⑩遺伝子検査結果報告

⑩情報共有

⑪鳥インフルエンザ（+）
二類感染症対応

高病原性鳥インフルエンザ防疫従事者の検査結果について

- 防疫従事期間：令和6年12月10日～12月25日
- 健康観察期間：令和6年12月11日～令和7年1月4日

保健所名	インフルエンザA型陽性の連絡があった人数（人）	左記のうち積極的疫学調査の結果行政検査を実施した人数（人）
松山市保健所	３１	１０
中予保健所	８	８
その他保健所	１２	１１
合　計	５１	２９

- ✓ 29名全員が鳥インフルエンザウイルス遺伝子検査は陰性
- ✓ 季節性インフルエンザウイルス陽性が27名、陰性が2名